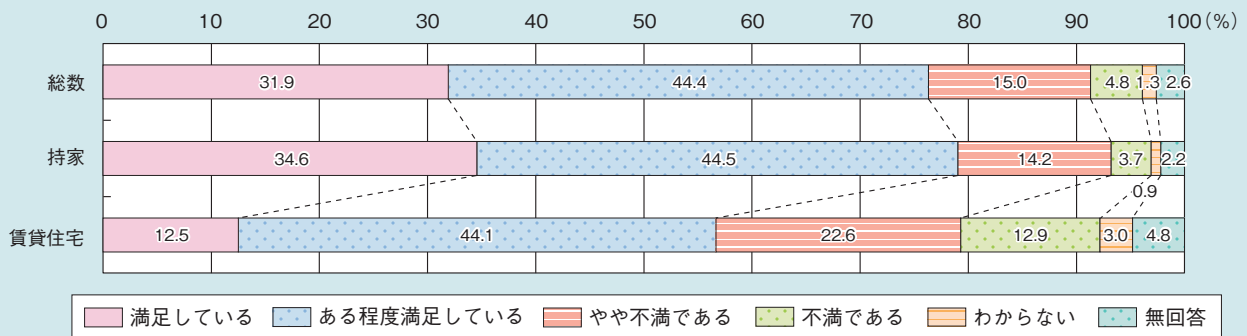


6 高齢者の生活環境

○高齢者の約8割は現在の住居に満足している

・60歳以上の高齢者に現在の住宅の満足度について聞いてみると、「満足」又は「ある程度満足」している人は総数で76.3%、持家で79.1%、賃貸住宅で56.6%となっている（図1-2-32）。

図1-2-32 現在の住居に関する満足度

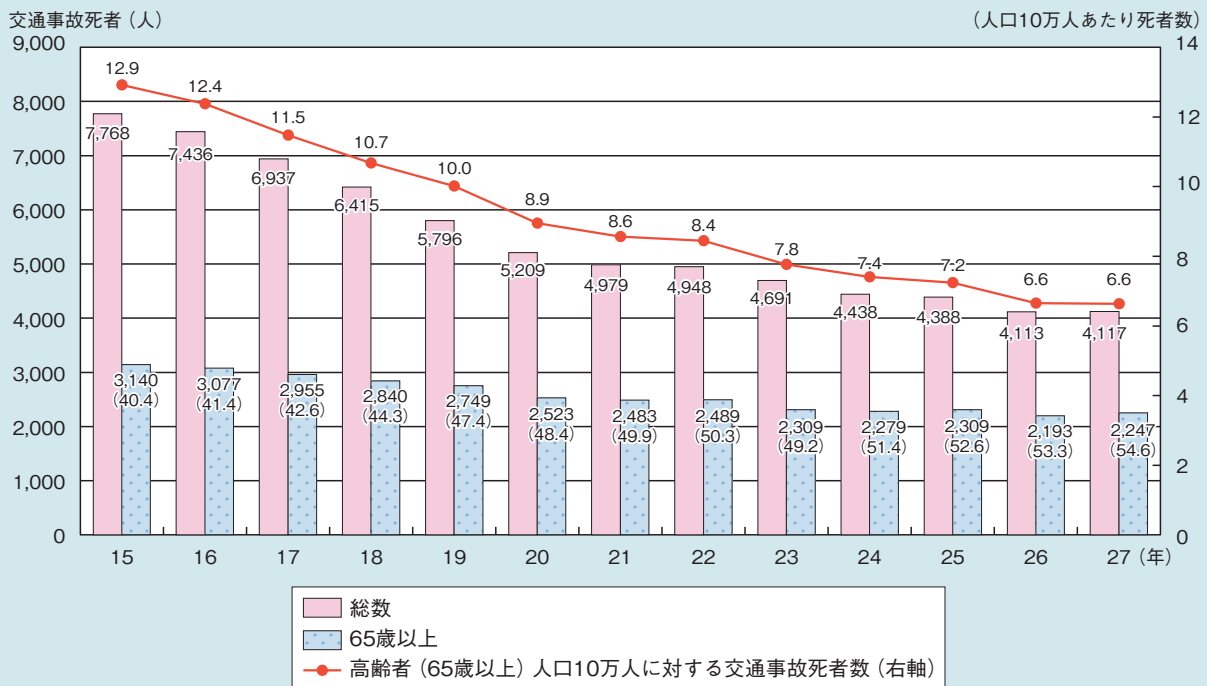


資料：内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」（平成26年）
 (注) 対象は、全国60歳以上の男女

○交通事故死者数に占める高齢者の割合は5割を超える

・65歳以上の高齢者の交通事故死者数は、平成27（2015）年は2,247人で前年より微増、交通事故死者数全体に占める割合は54.6%となった（図1-2-33）。

図1-2-33 年齢層別交通事故死者数の推移

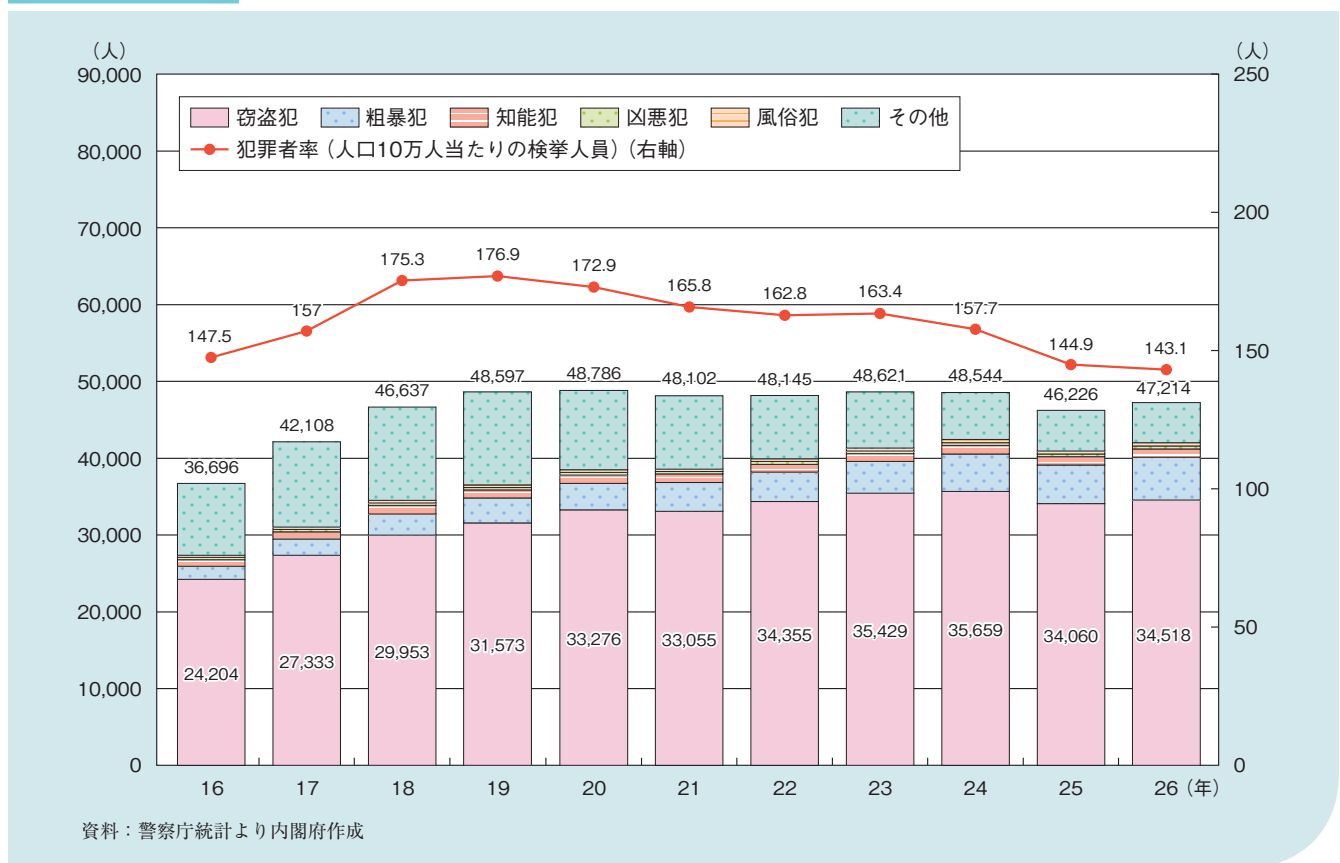


資料：警察庁統計、総務省「人口推計」より内閣府作成
 (注) () 内は、交通事故死者数全体に占める65歳以上人口の割合。

○高齢者の犯罪者率は減少傾向、被害に遭う割合は増加傾向

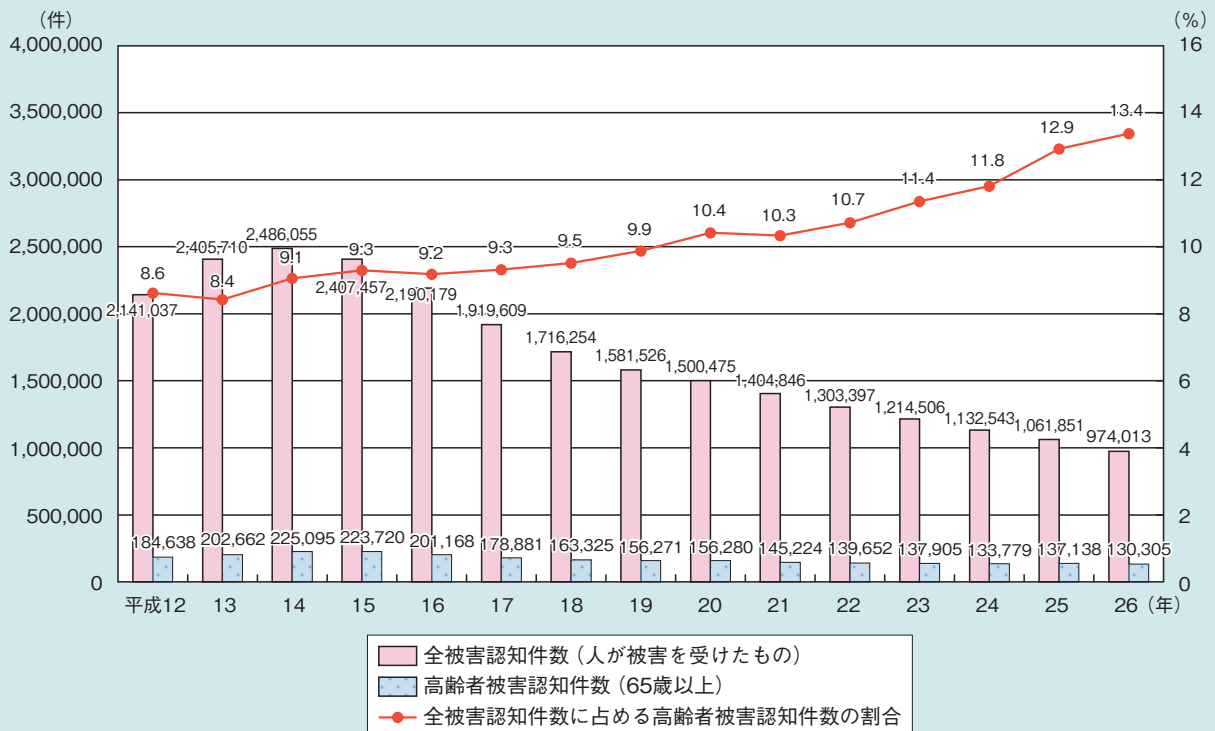
- ・平成26（2014）年の65歳以上の高齢者の刑法犯の検挙人員は、16（2004）年と比較すると、約1.3倍となっているが、犯罪者率は19（2007）年にピークを迎えて以降は低下傾向となっている（図1-2-34）。
- ・また、26年における高齢者の刑法犯検挙人員の包括罪種別構成比をみると、窃盗犯が73.1%と7割を超えている。

図1-2-34 高齢者による犯罪（高齢者の包括罪種別検挙人員と犯罪者率）



- ・犯罪による65歳以上の高齢者の被害の状況について、刑法犯被害認知件数でみると、平成14（2002）年にピークを迎えて以降、近年は減少傾向にあるが、高齢者が占める割合は26（2014）年は13.4%と、増加傾向にある（図1-2-35）。

図1-2-35 高齢者の刑法犯被害認知件数

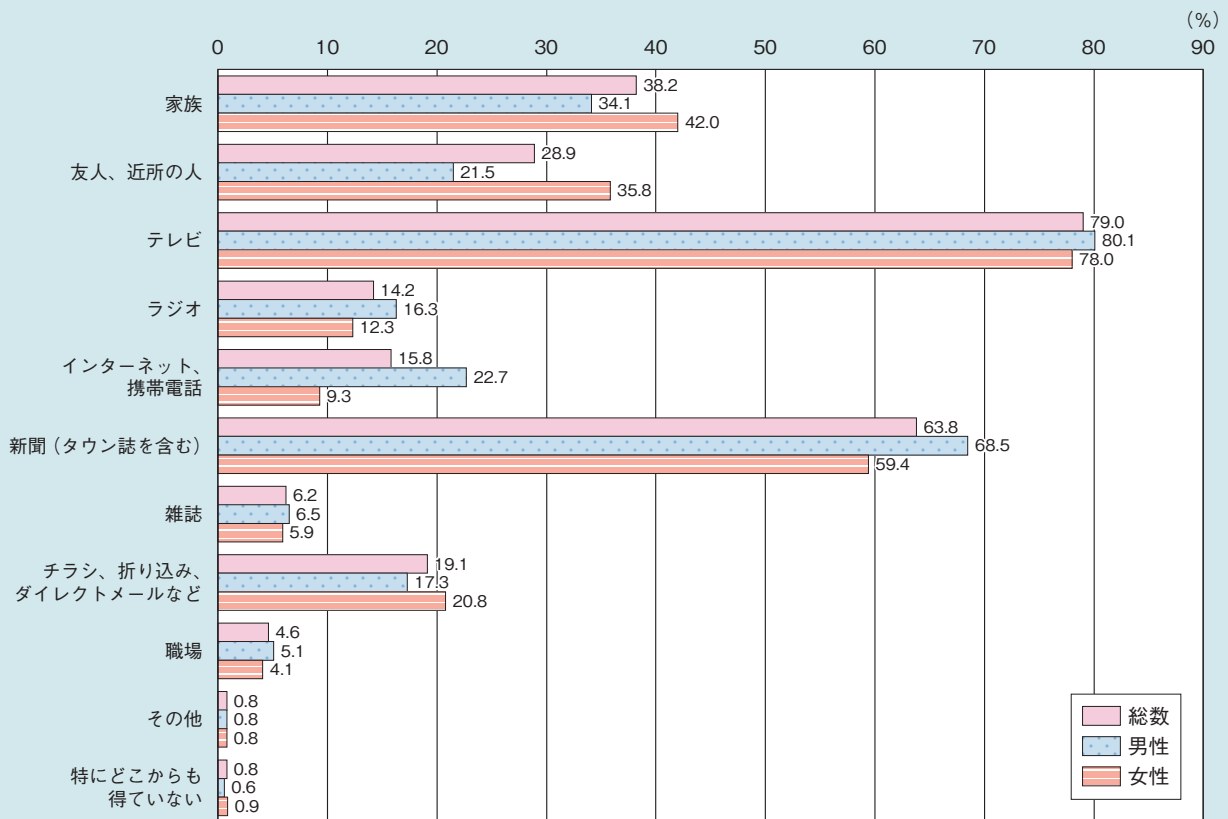


資料：警察庁の統計より内閣府作成。

○日常情報の情報源は「テレビ」が最も多く、ICTを利用している人は3割未満

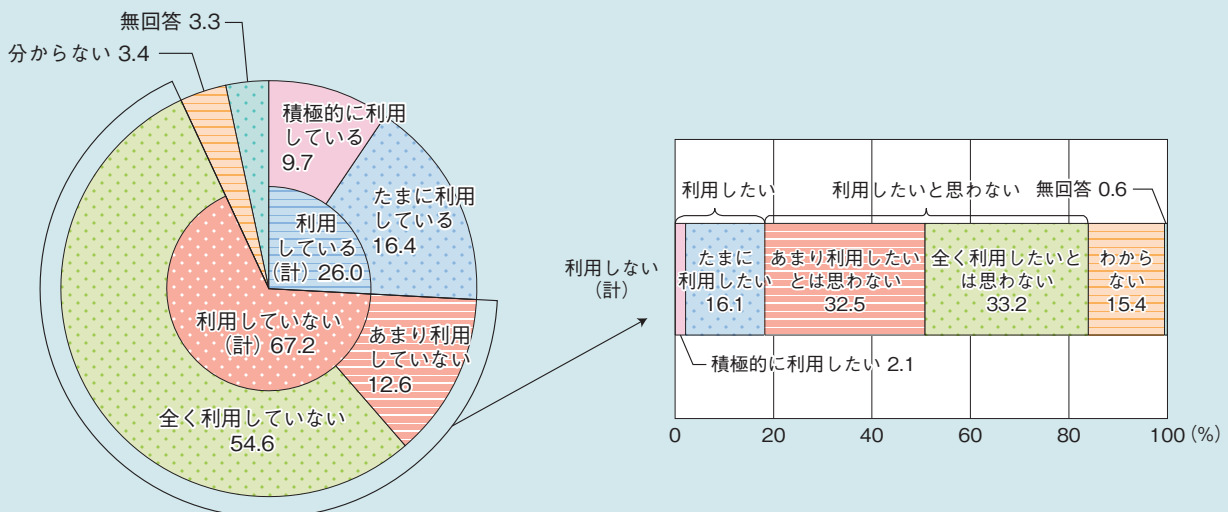
- ・65歳以上の高齢者が日常生活に関する情報をどこから得ているかについて、「テレビ」が79.0%と最も多く、次いで「新聞」が63.8%となっている(図1-2-36)。
- ・インターネットやスマートフォンなどの情報端末(ICT)を普段の生活で利用しているかについて、「利用している」(「積極的に利用している」と「たまに利用している」の合計)とする人は26.0%となっている(図1-2-37)。
- ・「利用していない」(「全く利用していない」と「あまり利用していない」の合計)とする人のICTの利用の意向についてみると、約2割(18.2%)が「利用したい」(「積極的に利用したい」と「たまに利用したい」の合計)としている。

図1-2-36 日常生活情報の情報源（3つまでの複数回答）



資料：内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」（平成26年）
 （注）対象者は60歳以上の男女

図1-2-37 ICTの活用について

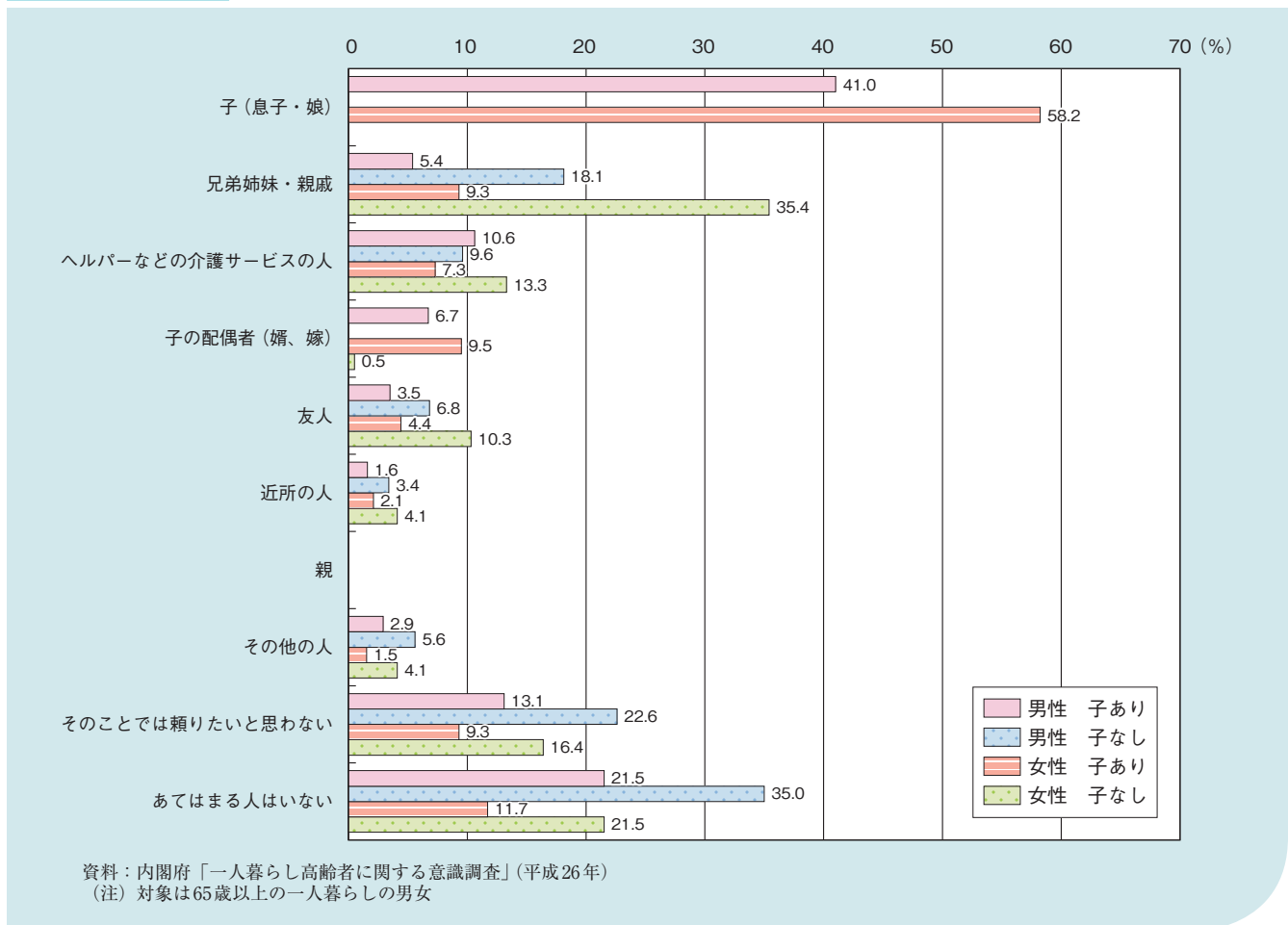


資料：内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」（平成26年）
 （注）対象者は60歳以上の男女

○頼れる人がいない一人暮らしの男性が多い

- ・65歳以上の一人暮らしの高齢者が、病気などの時に看護や世話を頼みたいと考える相手について、「あてはまる人はいない」とする人は、子供のいない男性で35%と最も多くなっている（図1-2-38）。

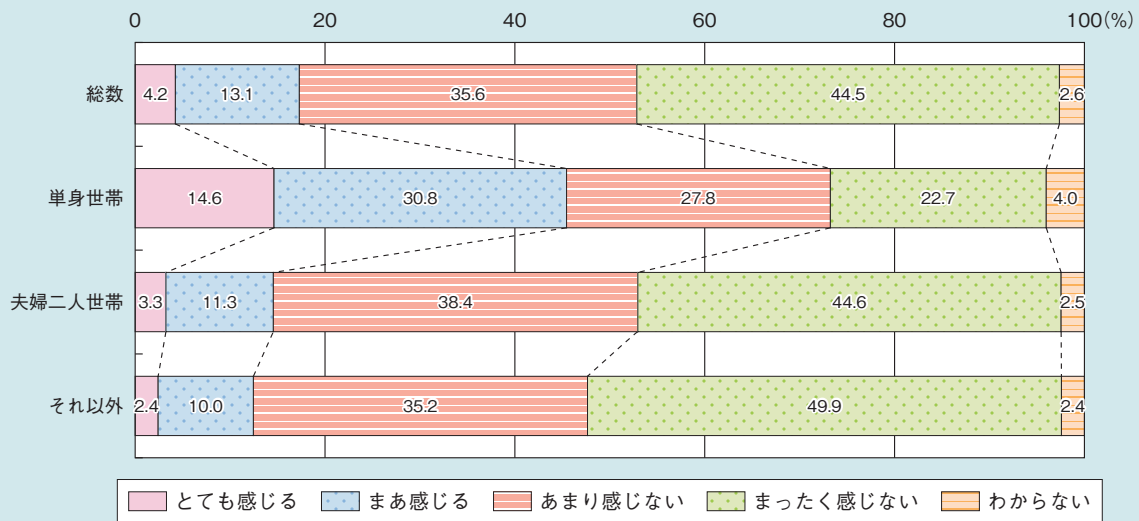
図1-2-38 頼りたい人（看護や世話）（複数回答）



○単身世帯の高齢者の4割以上が孤立死を身近な問題だと感じている

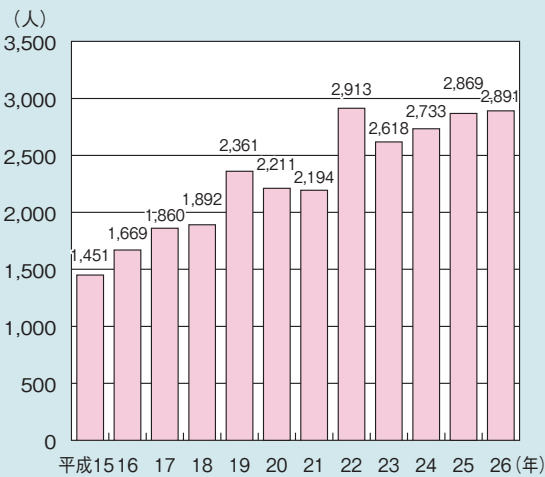
- ・誰にも看取られることなく、亡くなった後に発見されるような孤立死（孤独死）を身近な問題だと感じる（「とても感じる」と「まあ感じる」の合計）人の割合は、60歳以上の高齢者全体では2割に満たないが単身世帯では4割を超えている（図1-2-39）。
- ・死因不明の急性死や事故で亡くなった人の検案、解剖を行っている東京都監察医務院が公表しているデータによると、東京23区内における一人暮らしで65歳以上の人の自宅での死亡者数は、平成26（2014）年に2,891人となっている（図1-2-40）。
- ・独立行政法人 都市再生機構が運営管理する賃貸住宅約75万戸において、単身の居住者で死亡から相当期間経過後（1週間を超えて）に発見された件数（自殺や他殺などを除く）は、平成26（2014）年度に186件、65歳以上に限ると140件となっている。（図1-2-41）。

図1-2-39 孤独死*を身近な問題と感じるものの割合



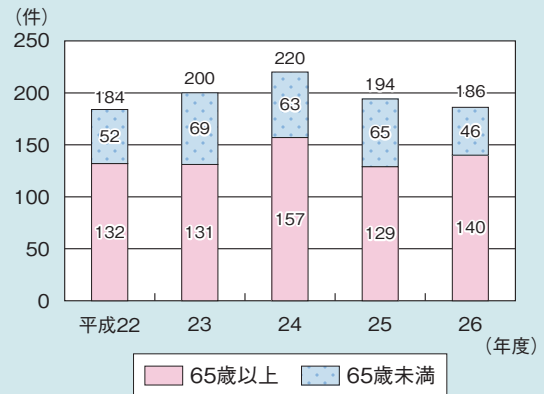
資料：内閣府「高齢者の健康に関する意識調査」(平成24年)
 (注) 対象は、全国60歳以上の男女
 *本調査における「孤独死」の定義は「誰にも看取られることなく亡くなったあとに発見される死」

図1-2-40 東京23区内で自宅で死亡した65歳以上一人暮らしの者



資料：東京都福祉保健局東京都監察医務院「東京都23区内における一人暮らしの者の死亡者数の推移」
 (注) 平成26年は速報値

図1-2-41 単身居住者で死亡から相当期間経過後に発見された件数

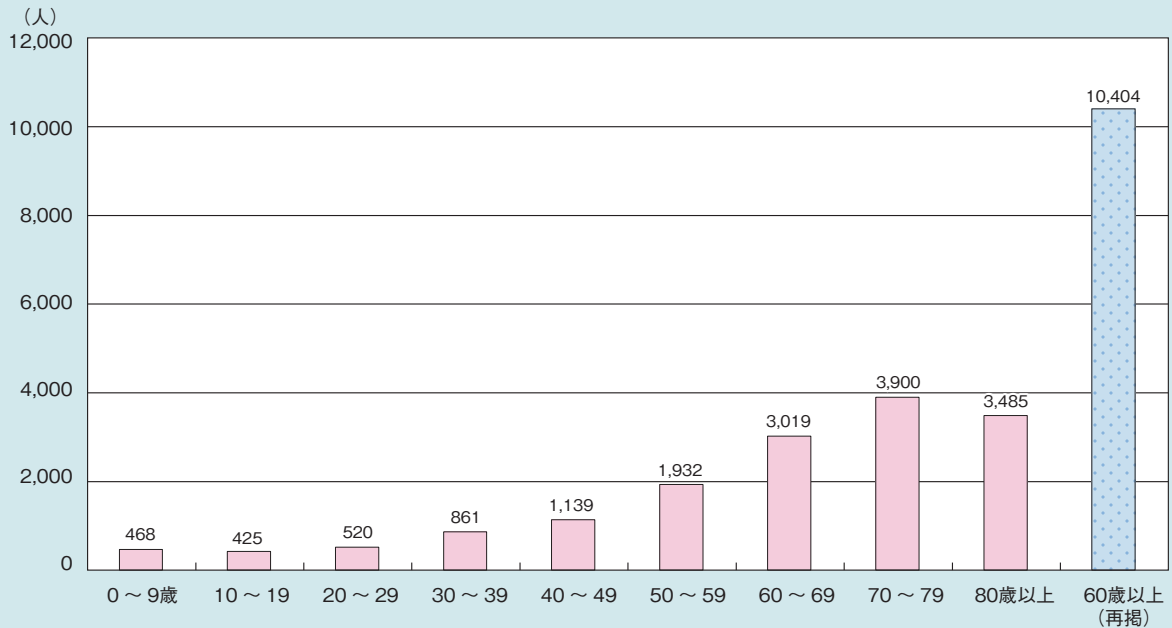


※(独) 都市再生機構が運営管理する賃貸住宅で、「団地内で発生した死亡事故のうち、病死又は変死の一態様で、死亡時に単身居住している賃借人が、誰にも看取られることなく賃貸住宅内で死亡し、かつ相当期間(1週間を超えて)発見されなかった事故(ただし、家族や知人等による見守りが日常的になされていたことが明らかな場合、自殺の場合及び他殺の場合は除く。)」を集計したもの。

○東日本大震災における高齢者の被害状況

- ・岩手県、宮城県、福島県の3県で収容された死亡者は、平成23（2011）年3月11日から28（2016）年3月11日までに15,824人にのぼり、検視等を終えて年齢が判明している15,749人のうち60歳以上の高齢者は10,404人と66.1%を占めている（図1-2-42）。

図1-2-42 年齢階級別死亡者数



資料：警察庁「東北地方太平洋沖地震における検視等実施・身元確認状況等について【23.3.11～28.3.11】」より
 ※検視等を終えて年齢が判明している者を集計